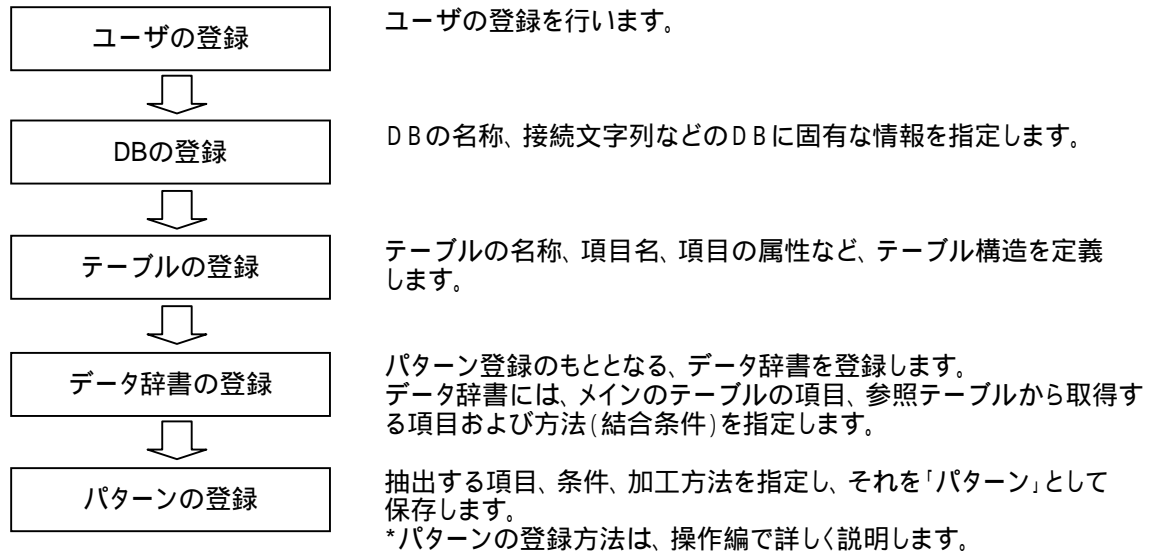


設定編

DataClosetの設定の流れ

DataClosetの設定の流れを以下に示します。



1. システム設定

設定画面を表示するには、プルダウンメニューの"D: DataClosetII"から "S: システム設定" を選択するか、ツールバーの以下のアイコンを押します。



[システム設定画面]



左画面のフォルダを選択することにより、右画面に登録されている内容が表示されます。
右画面下にあるボタンから該当の処理を選択してください。

DB管理・・・DB情報の登録、変更、削除を行います。
テーブル情報・・・テーブル情報の登録、変更、複写、削除を行います。*1
データ辞書・・・データ辞書の登録、変更、複写、削除を行います。*1
ユーザ管理・・・ユーザの登録、変更、削除を行います。
ライセンス管理・・・ライセンスの登録、削除、照会を行います。

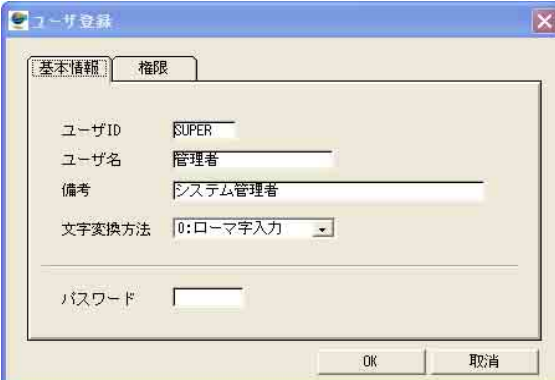
*1 テーブル辞書、データ辞書はその特性により、マスタ、データ、その他に分類することができます。

2. ユーザ登録

DataCloset-II の利用者を登録します。

*同じユーザが複数の端末から同時に処理を実行することはできません。

[ユーザ登録画面]



ユーザID

英数字8文字以内でユーザIDを指定します。

ユーザ名

ユーザ名を指定します。

備考

備考を入力できます。

文字変換方法

項目名、タイトル、パターン名などの漢字入力の文字変換方法を指定します。

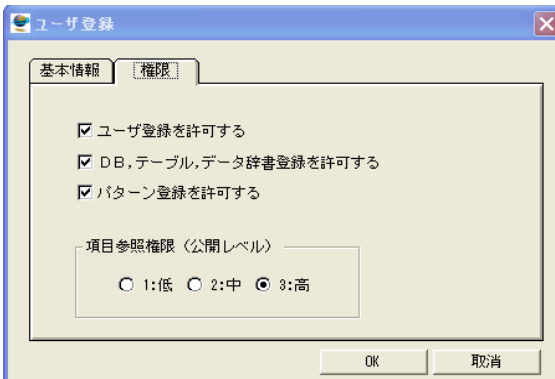
0:ローマ字入力

1:カナ入力

PASSWORD

英数字8文字以内でパスワードを指定します。パスワードは小文字、大文字を区別しますので、注意して入力してください。

[権限設定画面]



ユーザ登録を許可する

ユーザの登録・削除を許可する場合に指定します。この権限を持っていないユーザの場合、ユーザ登録画面のUSER名、PASSWORD、文字変換方法以外の変更はできません。また、F3:削除、F4:追加ボタンも無効になります。

DB/テーブル/データ辞書の登録を許可する

この権限を持っているユーザのみがDB、テーブル、データ辞書、メニューの登録ができます。

パターンの登録を許可する

この権限を持っているユーザのみが新しくパターンを登録することができます。この権限を持っていないユーザでも、パターンの実行はもちろん、履歴の保存もできますが、パターン自体を変更保存することはできません。

項目参照権限(公開レベル)

DataClosetでは、項目毎に公開レベルの設定ができます。(3. テーブル登録を参照)

例えば、「人事情報を一般社員には公開したくない」などの場合は、該当の項目の公開レベルを2以上に設定します。そうすると、項目参照権限が1:(低)のユーザはその項目の内容を参照することができなくなります。

* 公開レベルが操作者のレベルより高い項目の含まれているパターンでも実行はできますが、該当項目は'N/A'と表示されます。

3. DB登録

DB情報は、物理的なデータベースの単位に登録が必要です。

例えば、同じシステムを各拠点で使用している場合でも、データを本社のサーバーで一括管理している場合は、DBの登録は1つだけですが、各拠点にサーバーがあってそれぞれのデータベースを使用している場合は、拠点毎にDB情報を登録する必要があります。

また、1つの物理的なデータベースを複数登録することも可能です。

例えば、財務システムと販売システムが同じデータベースを共有している場合に、財務DBと販売DBといった具合に2つのDBを登録し、それぞれに必要なテーブル情報だけを登録することができます。「テーブルの数が多くて、どのテーブルを使用すればよいのか混乱する」といった場合などに便利です。

[DB詳細画面]

ID

DBのIDを2文字以内の英数字で指定します。

名称

また、DBの名称を30文字以内の英数字で指定します。

DB

データベースの種類を指定します。

接続情報

DBに接続するための情報を指定します。

DBがOracleの場合、ANK名～接続文字列の4項目の指定が必要です。(dbMAGICユーザの場合、<設定>-<データベース>-<データベース特性>-<ログオン>で指定されている情報と同じです。

また、Pervasiveの場合は、ODBCのデータソース名をANK名に指定します。

作業フォルダ

作業用のファイル、自動生成されたSQLを保存するフォルダです。また、抽出結果の出力先のデフォルトフォルダとしても使用されます。

WEB結果オプション

本システムをブラウザから使用する際のオプションを指定します。

出力形態

結果ファイルの出力形態を指定します。

保存日数

結果の保存日数を指定します。

保存フォルダ

結果の保存フォルダを指定します。

4. テーブル登録

テーブル情報には、項目名、データ型、長さなどの物理テーブル構造を定義します。

テーブル構造の取込み

DataClosetでは、テーブル構造を外部ファイルから取り込むことができます。

1: dbMAGICの辞書出力を取り込む

¥DataCloset¥ENV¥doc_dc.jpnn を使って、仕様書出力したファイル定義を取り込みます。
この場合は、外部ファイル名に、仕様書出力時に指定したファイル名を指定します。

注: dbMAGICの辞書出力する場合は、<設定>-<プリンタ>の先頭のプリンタの行をMAX値(9999)に設定してください。また、辞書出力後のファイルがこの値を超える場合は、分割して出力してください。

2: ORACLEの定義を読み込む

DB情報で指定されたテーブルのテーブル構造をORACLEから直接取り込みます。

3: 直接入力

テーブル情報を直接入力します。この場合、OKを押すとテーブル一覧に「新規テーブル」が登録されますので、プロパティを開いて直接入力してください。

[テーブル追加画面]



[テーブル追加 - 選択画面]

dbMAGICの辞書出力、もしくは、ORACLEの定義を読み込んだ場合には、テーブルの選択画面が表示されます。



登録するテーブルを選択し、必要に応じて分類や名称を変更して、OKボタンを押してください。

[テーブルのプロパティ画面]

No.	項目名	DBカラム名	項目型
1	伝票区分	伝票区分	数値
2	伝票番号	伝票番号	数値
3	行番号	行番号	数値
4	伝票日付	伝票日付	日付-文字型
5	商品コード	商品コード	文字
6	入数	入数	数値
7	ケース数	ケース数	数値
8	バラ数	バラ数	数値
9	合計数量	合計数量	数値
10	仕入単価_外貨	仕入単価_外貨	数値
11	仕入単価_邦貨	仕入単価_邦貨	数値
12	仕入金額	仕入金額	数値
13	仕入諸費用	仕入諸費用	数値
14	仕入原価	仕入原価	数値
15	課税区分	課税区分	数値
16	予定売価	予定売価	数値
17	売上単価	売上単価	数値
18	売上金額	売上金額	数値
19	消費税額	消費税額	数値
20	明細備考	明細備考	文字
21	売上店舗	売上店舗	文字
22	更新日付	更新日付	日付-文字型
23	更新時刻	更新時刻	時刻-文字型
24	更新者ID	更新者ID	文字
25	更新端末	更新端末	数値

[テーブルのプロパティ-基本情報画面]

基本情報

分類: 3:他

テーブル名称: 伝票ファイル

DBテーブル名: 伝票ファイル

OK Cancel

分類

テーブルの分類を指定します。

DataClosetでは、マスタ、データ、その他の3つの分類が用意されています。

テーブル名称

DataClosetだけで使用する任意の名称を指定します。

DBテーブル名

実テーブル名を指定します。

* dbMAGICのテーブルリポジトリでは、以下の欄に指定されている内容です。

Pervasiveの場合は、「名前」

Oracleの場合は、「DBテーブル」

[テーブルのプロパティ-項目のプロパティ画面]

項目名

DataClosetは、ANK名を使って実際の抽出処理を行いますので、項目名は何でも構いません。項目の内容にあった、わかり易い名前を付けることができます。

ANK名

データベース構造に定義されている名前を指定します。

Oracleの場合は、<テーブルリポジトリ>-<カラム>-<カラム特性>-<SQL>-<DBカラム名>を指定します。

Pervasiveの場合は、DDFに登録されているフィールド名です。(テーブルリポジトリのカラム名)

型

<テーブルリポジトリ>-<カラム>-<型>に対応しています。ただし、日付と時刻に関しては、実際のデータ型によって更に細分化されます。

- | | |
|-----------|--|
| D1:日付-文字型 | <テーブルリポジトリ>-<カラム>-<カラム特性>-<格納形式>-<記憶形式>で「StringDate」と指定されている日付
*OracleでCHAR(8)指定されている場合はこの型です。 |
| D2:日付-数値型 | <テーブルリポジトリ>-<カラム>-<カラム特性>-<格納形式>-<記憶形式>で「IntegerDate」と指定されている日付(ユリウス日付)
*Pervasiveの日付型のデフォルトはこの型です。 |
| D3:日付-日時型 | Oracleの日付型フィールドです。
Oracleの日付型のデフォルトはこの型です。 |
| T1:時刻-文字型 | <テーブルリポジトリ>-<カラム>-<カラム特性>-<格納形式>-<記憶形式>で「StringTime」と指定されている時刻
*Pervasiveの時刻型のデフォルトはこの型です。 |
| T2:時刻-数値型 | <テーブルリポジトリ>-<カラム>-<カラム特性>-<格納形式>-<記憶形式>で「IntegerTime」と指定されている時刻 |

日時の特殊編集

日付、時刻を出力する際の書式を指定します。

これは、文字型、数値型、日付型の項目に対して指定することができます。

数値桁数

数値型の項目に対して、整数部および小数部の桁数を指定します。

指定されない場合は、システムのMAX値が使用されます。

条件書式

条件入力、結果出力時の項目の書式です。書式の指定方法は、dbMAGICの書式指定と同じです。

[テーブルのプロパティ-項目のプロパティ画面]

The screenshot shows the '特性' (Properties) dialog box with the '固定値' (Fixed Value) tab selected. The '固定値' (Fixed Value) section has a dropdown menu set to '0:なし' (0:None). Below this, there is a text area with the following text:
*固定値
別名テーブルなどで、抽出条件を固定したい時に指定します。
固定値が指定された項目は、データ辞書やパターンに登録時には表示されません。
At the bottom, there are 'OK' and '取消' (Cancel) buttons.

固定値

外部結合時に固定でセットする値を指定します。主に、別名テーブルの固定キーの指定に使用します。
固定値で指定された項目の連結条件は、データ辞書では指定する必要がないばかりか、選択項目としても表示されません。

別名テーブルに関しては次ページで説明します。

The screenshot shows the '特性' (Properties) dialog box with the '公開レベル' (Public Level) tab selected. The '公開レベル' (Public Level) section has a dropdown menu set to '0:制限なし' (0:No restriction). At the bottom, there are 'OK' and '取消' (Cancel) buttons.

公開レベル

項目毎の公開レベルを指定します。ユーザの項目参照権限が、ここで指定された公開レベルより低い場合、出力結果には、N/Aが表示されます。

別名テーブル

1つのテーブルを条件を変えて異なる用途で使うことがあります。
 下の例のように、名称区分に「消費税」とセットした場合は消費税区分の名称を、名称区分に「取引区分」とセットした場合には取引区分の名称が登録してあります。

例) 名称マスタ

名称区分	名称コード	名称
消費税	1	外税
消費税	2	内税
消費税	3	非課税
取引区分	1	仕入
取引区分	2	売上
取引区分	3	移動



別名: 消費税マスタ

名称区分	消費税コード	消費税名称
消費税	1	外税
消費税	2	内税
消費税	3	非課税



別名: 取引区分マスタ

名称区分	取引区分	取引名称
取引区分	1	仕入
取引区分	2	売上
取引区分	3	移動

このようなテーブルを結合(リンク)する場合は、毎回、名称区分に該当の値をセットする必要があります。また、結合先のテーブル名が同じ「名称マスタ」で項目も「名称」という同じ名前になるので、混乱の原因にもなります。

DataClosetでは、このようなテーブルの使用を簡単にするために、別名テーブルを利用します。別名テーブルとは何も特別なものではなく、名称テーブルと同じテーブル情報を定義(複写)し、用途にあわせて、テーブル名と項目名を変えます。さらに、キー項目(名称区分)には固定値を指定します。

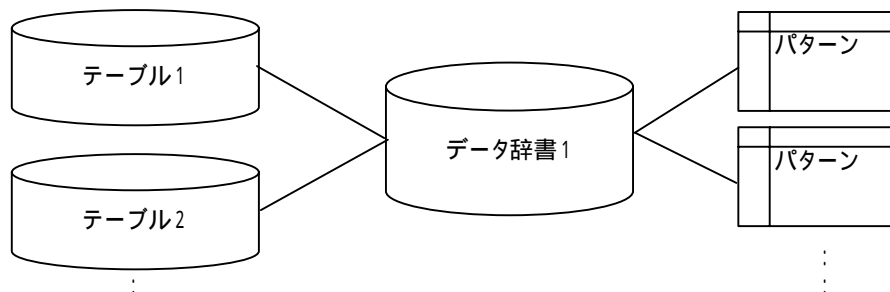
別名テーブルを利用することにより、

テーブル名、項目名を用途に応じて変更できる。
 固定値をセットする必要がない。

5. データ辞書登録

データ辞書は、パターン登録のもとになるデータ定義情報で、基本となるテーブルの項目と他のテーブル(参照テーブル)から取得する項目および取得方法(結合条件)を指定します。

[テーブルとデータ辞書の概念]



例) テーブル1 (売上明細 DUR)

DUR.伝票番号
DUR.伝票日付
DUR.商品コード
DUR.売上数量
DUR.売上金額

テーブル2 (商品マスタ SYO)

SYO.商品コード
SYO.商品名
SYO.分類コード

テーブル3 (分類マスタ BUN)

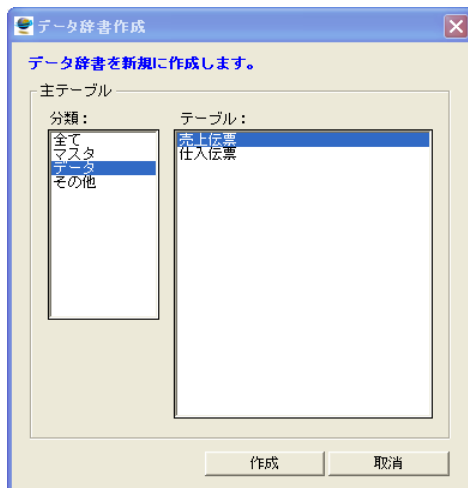
BUN.分類コード
BUN.分類名称

データ辞書1 (売上傳票)

DUR.伝票番号
DUR.伝票日付
DUR.商品コード (結合条件)
SYO.商品名…………DUR.商品コード = SYO.商品コード
SYO.分類コード…………DUR.商品コード = SYO.商品コード
BUN.分類名称…………SYO.分類コード = BUN.分類コード *1
DUR.売上数量
DUR.売上金額

*1 本来は、DUR.商品コード = SYO.商品コード
and SYO.分類コード = BUN.分類コード
となるところだが、商品マスタへのリンク条件
は既に指定されているので1行目は不要。

[データ辞書登録画面]



メインのテーブルを選択して、<作成>ボタンを押してください。

[データ辞書プロパティ画面]



* 黒文字は、メインテーブルの項目、青文字は参照テーブルの項目です。

[データ辞書プロパティ - 基本情報画面]



分類
データ辞書の分類を指定します。
マスタ、データ、他の3種類から選択
できます。

辞書名称
用途に応じて、辞書の名称を指定します。

説明
用途等の説明を記述します。

[データ辞書プロパティ - 参照テーブル画面]

ID	参照テーブル名称	説明
01	売上伝票	主テーブル
02	日付マスタ	伝票日付より年と年月を取得する
03	商品マスタ	商品情報を取得する
04	分類マスタ	分類名称を取得する
05	仕入先マスタ	仕入先情報を取得する
06	国マスタ	国名を取得する

削除(F3) 追加(F4) 結合条件(F5)

結合条件

No.	参照テーブル名称	説明
1	売上伝票 商品CD	商品マスタ 商品CD

削除(F3) 追加(F4)

上図の例の場合、主テーブルが売上傳票で、商品情報を取得するために商品マスタを参照しています。結合条件は、「商品コードが一致するもの」です。

参照テーブル

- ・参照テーブルとして登録されると、そのテーブルの全ての項目が参照可能になります。
- ・1つのテーブルを異なるキーで参照する場合には、同一テーブルを複数登録することができます。この場合は、参照テーブル名称を変更するなどして、それぞれの用途を明示します。

(例)

ID	参照テーブル名称	説明
01	商品マスタ	主テーブル
02	名称マスタ：分類	分類名称を取得する
03	名称マスタ：課税区分	課税区分の名称を取得する

複合条件の指定

複合条件を指定する場合は、条件を複数行指定します。

条件に固定値を指定

固定値を指定する場合は、左辺の上段にテーブル、下段に項目を指定し、右辺の上段には「固定値」を選択して下段に該当の値を指定します。

(例)

No.	参照テーブル名称	説明
1	名称マスタ：分類 名称区分	固定値 分類
2	商品マスタ 分類CD	名称マスタ：分類 名称コード

6. パターン管理

パターンとは、抽出する項目、条件、集約方法の定義し、保存したものです。

パターンは、用途などに応じて、分類して管理します。

パターン管理画面を表示するには、プルダウンメニューの"D: DataClosetII"から "P: パターン管理" を選択するか、ツールバーの以下のアイコンを押します。



[パターン管理画面]

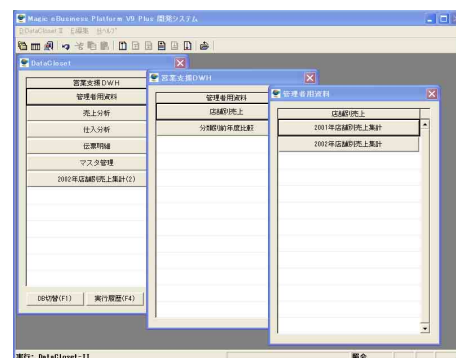


左画面のフォルダを選択することにより、右画面に登録されているパターンが表示されます。

パターンを作成、削除、複製、変更する場合は、右画面下にあるボタンから該当の処理を選択してください。

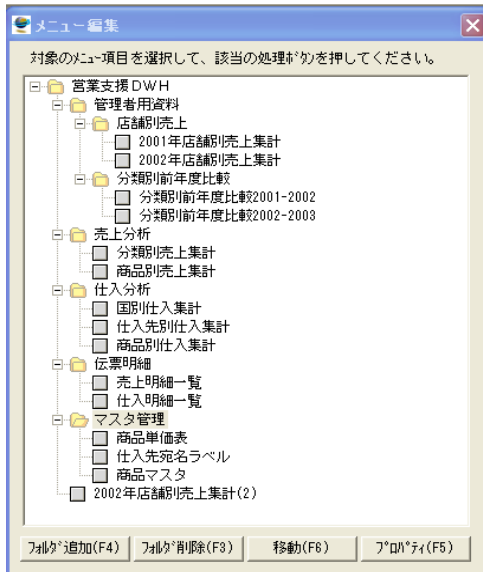
* パターンの登録内容に関しては、操作マニュアルで詳しく説明します。

* パターンのフォルダは3階層まで指定でき、そのままの構成でプッシュボタンメニューになります。



フォルダ(メニュー)の編集

フォルダの編集は、パターン管理画面の<編集(F1)>オプションで行います。

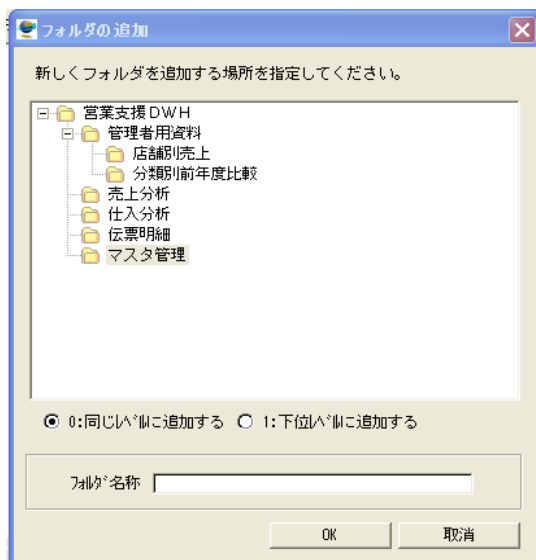


プロパティ(F5)

フォルダやパターンの名称を変更します。

フォルダ削除(F3)

指定されたフォルダおよびその下位項目を削除します。

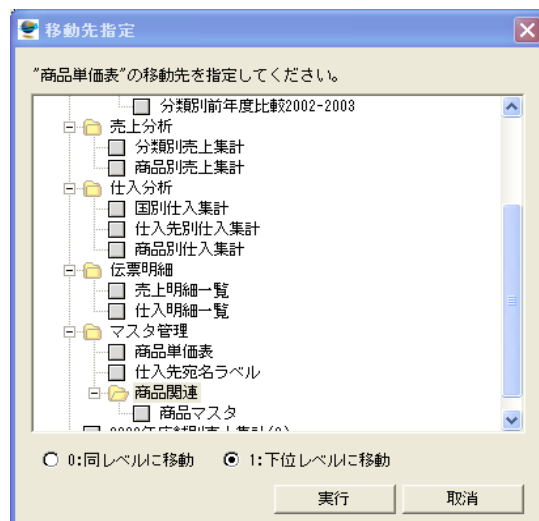


フォルダの追加

メニュー編集画面で<フォルダ追加(F4)>を選択します。

フォルダの追加画面で追加する場所を選択します。この時、指定した場所と同じレベルにするか、下位レベルにするかの選択ができます。(追加する位置が最下層の場合は、下位レベルは選択できません。)

フォルダの名称を入力して、OK ボタンを押します。



フォルダの移動

メニュー編集画面で移動したいフォルダ、もしくはパターンを選択し、<移動(F6)>を選択します。

移動先指定画面で移動先の場所を選択します。この時、指定した場所と同じレベルにするか、下位レベルにするかの選択ができます。(追加する位置が最下層の場合は、下位レベルは選択できません。)

実行ボタンを押します。

* フォルダの下位レベルへの移動はできません。この場合は、新しいフォルダを下位レベルに作成し、パターンを移動した後、元のフォルダを削除してください。